

令和4年度 第4回 伎倍小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和5年2月15日(水) 14時00分から15時30分まで
- 2 開催場所 伎倍小学校 会議室
- 3 出席委員 木俣 保広、飯田 勤、平野 秀美、鈴木 健太郎、竹内 真哉、
金原 江里華、石井 好代、坂巻 晋、鈴木 佐織
- 4 欠席委員 0人
- 5 学 校 中村 信也(校長)中道 昌良(教頭)、鈴木 成幸(教務)
佐藤 富子(CSディレクター)
- 6 傍聴者 0人
- 7 協議事項
- 8 会議録作成者 CSディレクター 佐藤 富子
- 9 会議記録

(1)学校評価について

- (1)学校評価について
 - (2)令和5年度学校経営方針について
 - (3)令和5年度支援ボランティアについて
 - (4)学校運営協議会の自己評価について
 - (5)その他諸連絡
- (徳)あいさつのめあては、4、9、1月と特に呼びかけ実施していく(委員会によるあいさつ運動)
- (体)目標を持ってすすんで取り組んで行くことが出来た。
- 来年度はキャリア教育の日常化を行っていきたい。
- 委員会がコロナで集まって行うことが出来なかったので、来年度はアクションをおこして行きたい。

(2)令和5年度学校経営方針について

自分達で考え、行動出来る子になってほしい。社会情勢が激しい中、自ら対処していける様になってほしい。それぞれ違う自分らしい生き方の為の土台をつくり、自分の長所(持ち味、自信のある所)を強みに変えて行ける様になってほしい。

グランドデザインは先生方からも意見を出してくれて改良し作成しました。より見やすく分かりやすくすることが出来ました。

多様性を大切にする為にも地域との繋がりをもう一度取り戻し、たくさんの方の力をお借りしたい。

(校長)

- ・キャリア教育の日常化していくことが大切、受け止める力とはどういうものなのか？スポーツフェスティバルはどうやっていくのか？(平野)
- 他の子の考えを一度とらえてから自分の意見を述べる。良い悪いではなく、相手の考えを否定せず、その上で自分はどうしたいのか話し、お互いを高め合う(意見交換をする)

スポーツフェスティバルはまだ具体的には決まってないが、順番ではなく自分自身の目標や取り組みが達成出来たかを実践していきたい。着順よりも記録、自分の最高記録から更に伸ばして行く場にしたい。一人一人をみるにはたくさんの人の力が必要になるので、地域の方の力を借りたい。
(校長)

・学校のグランドデザインの承認は必要なのか？考えてくれたもの全てが納得出来る訳ではない、承認には抵抗がある。職員と子供との基準にギャップを感じる。自分の目標に近づけた事に喜びを感じる事が出来るのか？(飯田)

・グランドデザインは夫婦生活と似ている。相手を受け入れ、話を聞くという事に共感できる。(健太郎)

・多様性が私達の子供の頃と今とでは変わってきている。個性と多様性の基準が難しい。(石井)

・来年度は運営委員で底上げして行きたい。(竹内)

・キャリア教育とは、人の意見・行動を認めながら自分の意見を述べる事。他人を押さえる事なく、認める事。(木俣)

・自分らしさを磨く子が大切。近づける様に、自ら行動できる。認められたから動ける様になる。すごく良いデザインだと思う。これが出来たらすごいと思う。(平野)

・他の子の意見を受け入れるのは大人になってから出来る事なので、子供が気づけるのか？家庭でも実践して行かないと難しい。保護者の方にきちんと伝える事が出来れば、みんなが共通理解できるのではないかな。(佐織)

(3)令和5年度支援ボランティアについて

・学校側の要望と運営協議会独自のものがあるとおもしろい。早速考え企画を作ってくれて大変素晴らしい！来年度への意欲があっいい。(飯田)

・大人からアクションをして大人も楽しむ、そうすれば子供も楽しめる。スポーツフェスティバルも大人が混ざって楽しむ事が出来るといい。(平野)

・スポーツフェスティバルに先生や大人が楽しめるものがあったらいいと思う。昔は保護者競技や先生のルールがあった。運営協議会での企画があったらいい。(竹内)

(4)学校運営協議会の自己評価について

・思う事を伝える事が出来なかった。行事に参加出来なかったなので、参加して意見が言えればよかった。(佐織)

・小・中・高の中で小学校が一番変化が出来る所、小学校は楽しむべき。小さい頃は影響が一番大きいのに職員が少なすぎる。現実理想から離れているので色々な事が出来ない。例えばプログラミングの授業、個々で作業を進めているのに人の目が足りない、一人一人に合ったサポートが出来ない。(凶形等)みんな自分の考え方があり、それぞれの正解を導いてあげる事が出来ない。正解はその子によって違うけど、見てあげられる人が居ない。人の力が足りないからもっと地域の方の力を借りたい。親を動かす事も大切、みんなと一緒にやっていく事が大切。先生頑張り！(平野)

- ・どうしたい、何をすべきか、理解をするまでに時間がかかった。平日の話し合い等みなさん仕事があるから集まらない。やりたがる人が居ない。こちらからアピール・アクションしていかないと人が動かない。何となく大変と思っている人が多い。発信していく事が大切。(坂巻)
- ・自分の意見を発信出来なかった。保護者の方にも協力をして貰えないと供達がつけていきたい力を伸ばしてあげる事が出来ない。(金原)
- ・初年度はコロナで2回のみ、本年度は4回出来たのは良かった。前進した年になった。来年度はもっとできる年になると確信している。(飯田)
- ・更にどう進めて行くのか考えるのが課題。協力してくれている人はCS活動だと思ってないから、その方達にそれがCS活動だよと伝えるのが大切。CSとしての目標があればもっと分かりやすく、評価にもつながる。(木俣)
- ・歯がゆい年のスタートだった。3年目は自らもっと動いていきたい。地域の方が色々と協力してくれている事に気づいた。自分が思っているよりも難しかった。(健太郎)
- ・今年は多少なり実務が出来た。登録してくれた人が意外と色々なことが出来る人が多い。部活動もカバー出来るのでは？先生達を補える様な活動をしていきたい。ポスター等色々な所でPRしていきたい。(竹内)
- ・CSの把握に時間がかかった。今年は広めていく事が出来たと思ったが、なかなか思ったより登録が増えなかった。今の保護者は働いている方が多く、子供達との関わり方やライフスタイルが違うので、そういう人達をどうしたら取り込めるのか？参加してくれるのか？考えていきたい。中・高生はボランティア活動として参加する事は出来ないのか？(石井)

終わりの会にて、司会の教頭から次回会議は令和5年4月26日(水)14時00分ごろから会議室で開催と来年度の開催予定日の報告があった。